

# 保育実習日誌の書き方に関する考察

吉 江 幸 子

星槎道都大学研究紀要

社会福祉学部

創刊号

2020 年

## 保育実習日誌の書き方に関する考察

吉 江 幸 子

### 1. 研究の目的

保育士養成課程における保育実習の目的は、国の保育実習実施基準である「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」(平成27年3月31日厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知, 以下「局長通知」)において、その第1で次のように定めている。

「保育実習は、その習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする」

この目的を達成するために、保育実習(以下、「実習」)の段階的な履修方法や実習施設の選定等における基準に則り、全国の養成施設が実習を効果的にすすめられるよう指導体制を整えている。

学生は座学と実学の積み重ねによって保育の専門性を学び、保育士として従事するための準備をすすめるのであるが、実習に際し、学生が苦勞することの一つが記録である。実習期間中は毎日記入する記録だが観察力や表現力が大きく求められる。事前指導で記録の意義・目的を説明し、実習日誌の様式を示しながら記入の方法を学ぶのであるが、実習後は日誌の記述の難しさを口にする。そこで本研究では、実習における記録の意義を明らかにし、記録が難しいと話す学生にどのように指導したらよいかについて考察することを目的とした。

### 2. 研究の方法

保育実習を履修するために保育実習指導という必修科目が設置されている。この科目における指導内容と実際に学生が実習で記録した実習日誌及び保育現場の実習評価をもとに、日誌の書き方における実態、そこから見えてくる課題、今後の対策について検討する。

### 3. 保育実習指導における標準化の背景

近年、子ども子育て支援法の施行や児童福祉法の改正、保育所保育指針の改定等により保育を取り巻く環境は多様に変化している。これらに対応するため保育実習実施

基準も見直され、保育士養成施設の実習指導に関する調査研究も進められてきた。とりわけ一般社団法人全国保育士養成協議会編集の「保育実習指導のミニマムスタンダード」(2007)は、実習指導の基礎的内容を整備し、標準的事項を共有する目的で刊行され、各養成校の実習指導担当者が活用してきた基準本である。このミニマムスタンダード策定の背景には「2003年、厚生労働省雇用均等・児童家庭局長名での『保育士養成施設の指定及び運営の基準』で示す『保育実習』の目標・ねらい等はきわめて簡明であり、養成校の実習指導者がみずからの行う教育・指導の独自性や有効性を判断するための基準として機能させるには十分とはいえない」との指摘があったからである(全国保育士養成協議会, 2018)。

入学してくる学生に対し、保育士の専門的知識・技能等を正確に伝え、実習における学びの質を担保すると考えた時、実習指導の基礎的な条件を整備し、標準的事項を共有することが必要であることは言うまでもない。

以上のことから養成校の実習指導者が共有する事項として「保育実習のミニマムスタンダード～現場と養成校が協働して保育士を育てる」(2007)、さらには「保育実習のミニマムスタンダード Ver.2『協働』する保育士養成」(2018)が刊行され、養成校側の一方通行ではなく、現場の実習指導者にも参加・執筆を求め協働という双方向の関係形成を以ってひとりの学生を保育士として育てていく方向性を示したのである。

### 4. 保育実習指導の単位化

保育実習の履修基準は、局長通知により運営の基準を定めているところであるが、保育実習指導が教科目として単位化されたのは2010年の「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)」による提示である。改正案に係る保育実習関連の抜粋を表1に示す。改正では、必修科目である「保育実習」5単位を「保育実習Ⅰ」4単位、「保育実習指導Ⅰ」2単位とし、選択必修科目「保育実習Ⅱ又はⅢ」にも「保育実習指導Ⅱ又はⅢ」1単位が示されたのである。これにより、保育実習指導は一つの科目として、教科目の目標及び教授内容の中で実習の意義、実習内容と課題の明確化、実習の計画と記録に関する事

表1 保育実習における単位数の変化

	改正前			2010年改正案		
	教科目	設置単位数	履修単位数	教科目	設置単位数	履修単位数
必修	保育実習（実習）	5	5	保育実習Ⅰ（実習）	4	4
				保育実習指導Ⅰ（演習）	2	2
選択必修	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）	2	2	保育実習Ⅱ又はⅢ（実習）	2	2
				保育実習指導Ⅱ又はⅢ（演習）	1	1

※資料：保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）2010.3.24 保育士養成課程等検討会別紙1より抜粋

前・事後指導が整理されることとなった。ここでは、保育実習指導Ⅰ（演習・2単位）の目標と内容について表2に示す。

表2は2018年の養成課程改正案で示されたものであるが、2010年からその内容に変更点は認められない。

いずれにしても保育実習5単位の中に含まれ、実習4単位と実習指導1単位で合計5単位としていた実習指導が科目として独立し、実習指導の強化によって保育実習をより体系的・総合的・効果的に行なうことが明らかにされたと考えてよい。

本稿で取り上げるのは、教授内容に明記されている「4. 実習の計画と記録」である。

## 5. 保育実習指導における記録指導

ここでは保育実習指導Ⅰの記録指導について述べる。

筆者が所属する北海道内の保育士養成施設では、前述のミニマムスタンダードを参照・引用して作成された「保育実習指導ガイドライン」を活用して指導にあたるよう申し送りがなされている。これは全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会に所属する養成校の理事が編集委員を務め執筆したもので2018年4月1日付で配布された。本学においても学生に配布し、標準的な実習基準を示しながら指導している。

保育実習Ⅰの内容に“記録に基づく省察・自己評価”が掲げられていることから保育実習指導Ⅰにおいても観察と記録、評価に関する事前・事後指導が求められる。

保育実習Ⅰは学生にとって初めての学外実習となるが、実習施設の1日の流れを見学・観察するところから始まり、子どもと生活をともにする参加実習、さらに実習生の力量に応じて部分的に指導計画を立案し実践してみる指導実習へと経験を積んでいく。以上のようないくつかの実習段階において必ず必要になるのが記録である。

書き留めるといふ行為を通じて自己の実践を振り返り、現場の実習指導者から指導を受け、良かった点や改善点を理解していくことにつながる。

記録の書き方について本学では、前述の「保育実習指

表2 保育実習指導Ⅰ（演習・2単位）の目標及び内容

〈目標〉
1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
〈内容〉
1. 保育実習の意義
(1) 実習の目的
(2) 実習の概要
2. 実習の内容と課題の明確化
(1) 実習の内容
(2) 実習の課題
3. 実習に際しての留意事項
(1) 子どもの人権と最善の利益の考慮
(2) プライバシーの保護と守秘義務
(3) 実習生としての心構え
4. 実習の計画と記録
(1) 実習における計画と実践
(2) 実習における観察、記録及び評価
5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化
(1) 実習の総括と自己評価
(2) 課題の明確化

資料：保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について（2018）

導ガイドライン」と「幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」のテキストを使用して教科目「保育実習指導Ⅰ、Ⅱ及びⅢ」で取り上げるほか、「保育課程論」（2019年度新カリキュラムは「保育の計画と評価」）や本学独自の共通教育科目である「アクティブプログラム」を活用した保育所交流の企画立案を通して実践を積んでいるところであるが、保育の知識不足が故に視点の定まらない文章表現が散見する場合と、基礎的な文章表現に間違いが散見する場合がある。

このことについて佐藤（2019）は、学生が書いた実習日誌の15行ほどの文章を取り上げ、次のように述べている。

「\*今日は5歳児のクラスで「ごっこ遊び」をしました。子どもはいろいろなものにたとえるのが上手で、幼児はごっこ遊びが得意だと思いました。ごっこ遊び

は一人ひとりの特意なことがよくわかるので～以下省略。

\*今日はなるべく多くの子どもと関わろうと思って実習に臨みました。子どものいろいろな姿が見えたので、これからも積極的に実習に望みたいと思います。

始めは正しい漢字表記ができていたにもかかわらず、わずか数行後には間違った漢字を書く学生が少なくない。同様の事例が増えている。」

とし、文章を書く時の注意力不足や国語力の低下が深刻であると指摘している。

## 6. 学生の実習日誌から見えること

先に述べた佐藤（2019）の指摘同様に、本学の学生が記入する実習日誌の記録も、実習指導担当者が付箋を付けて誤字・脱字を指導したり、その書き方では意味を取り違える可能性の指摘、話し言葉の部分を示し、丁寧に指導していることがわかる。

以下に学生が書いた日誌から誤った表記の記録と実習指導担当の保育士が指導した部分を抜粋する。

- ①○○ができたと思った。ですが、畑に向かう途中で～以下省略。
- ②物の取り合いになるので、回数を決めてやる。
- ③○○でふざけている子どもがいた。→気持ちが高ぶっている子どもがいた。
- ④靴下をはいてもらう。→靴下をはく援助をする。
- ⑤オムツは大丈夫か見る。→オムツに排泄しているか確認する。

①と②は、話し言葉による記載であり、特に①は、一つの文章中に敬体と常体が混在している。③は、子どもが冗談を言ったり飛び跳ねたり騒いだわけではなく、実習生が子どもの横に座った時のことを表現した記載であるため、ふざけているのではないことが担当保育士の指導で書き示されている。④は、主語を「子ども」にした場合は不適切な表現である（授業では、行為主体を意識し、「子ども」を主語にして書いてみるよう指導している）。⑤は、オムツの何が大丈夫なのか不明瞭であり、伝えるべきことが分かりやすく表現されていない。これら①～⑤は一人の記録から抽出したものである。

また、多くの学生に共通して見受けられる表記が「ら抜き」、「い抜き」言葉である（表3）。

表3 多用される「ら抜き言葉・い抜き言葉」

食べれる	食べれない	
寝れた	寝れない	
残ってる	残ってない	
見れた	見れなかった	
しっかりしてる	しっかりしてない	他

以上のように不適切な表現が多く見られ、しかも誤った表記であることに学生自身が気づいていない。実習担当教員が訪問指導において記録の確認・指導を行い、実習先の担当保育士とも調整を図るが、実習評価票の総合所見で誤字・脱字の多さや読み直しが必要であるとの指摘を受けることは当然のことであり、記録の評価が低くなることも否めない。

実習を終えた学生に「何が大変だったか」を尋ねると、その9割が実習日誌を書くことと答える。実習を終えて夕方帰宅し、そこから7時間かけて記録を書いた学生もいるなど1日の記録完成が夜中までかかっている場合も少なくない。緊張する毎日の中で休息ともなる睡眠時間の調節が崩れると体調管理にも影響を及ぼしかねない。しかし、記録は保育士にとって欠かせない業務の一つであり、保育所保育指針解説（2018）においても次のように示されている。

「子どもは、日々の保育所の生活の中で、様々な活動を生み出し多様な経験をしている。こうした姿を記録することは、保育士等が自身の計画に基づいて実践したことを客観化することであり、記録という行為を通して、保育中には気づけなかったことや意識していなかったことに改めて気づくこともある。記録をする際には、子どもに焦点を当てて、生活や遊びの時の様子を思い返してみる視点と、一日の保育やある期間の保育について、保育士等が自分の設定したねらいや内容・環境の構成、関わりなどが適切であったかといったことを見直してみる視点がある。この双方の視点から保育を記録することによって、子どもの生活や遊びにおける保育士等と子どもとの多様な相互作用の様子が明らかとなる。

こうした記録を通して、保育士等は子どもの表情や言動の背景にある思いや体験したことの意味、成長の姿などを的確にかつ多面的に読み取る。その上で、指導計画に基づく保育の実践やそこでの一人一人の子どもに対する援助が適切であったかどうかを振り返り、そこで浮かび上がってきた改善すべき点を次の指導計画に反映させていく。この一連の流れが保育の過程であり、この循環的な過程が絶えず繰り返されながら、日々の保育は連続性をもって展開されるとともに、保育における子どもの育ちが意識化され、長期的な見通しに基づく保育の方向性が具体化される。」

このように記録から子ども理解を深め、保育の質の向上を図ることが記録の目的であると述べている。

## 7. 課題と対応に関する考察

学生が実習日誌を書くということは、実習生の推測や



活動の一場面を切り取る主観的発想を言語化し、指導教員や実習担当者と共有することで客観的視点を身につけることに役立つ。また、子どもの思い、保育士の意図や願いに気づいていく過程でもあると考える。さらに指導計画の作成や日誌に記録することは、その日の保育を考えたり見直しをもって保育活動を組み立てる保育のデザインとも言える工程なのである。

保育所であっても児童福祉施設であっても、業務日誌、保護者との連絡帳、個々の子どもの成長記録、指導計画や指導要録の作成、保護者・地域住民に向けた発信文等記録の種類は多種多様である。実習内容を記録することによる客観化は今後保育士として勤務した際に担う様々な記録の事前体験でもある。子どもの動きを観察し記録に表すこと、保育士の動きを観察し記録に表すこと、自分自身も保育活動に参加し記録に表すことを体験することで記録に慣れ、客観化に慣れ、エビデンス (evidence) に基づく保育の実践を具現化する過程と捉えることができる。

では、このように重要な項目である記録がなぜ実習時間の中に組み込まれないのであろうか。

教科目である「保育実習」の目標・教授内容に、「記録に基づく省察・自己評価」が挙げられているにも関わらず自宅へ帰り日誌を記入するのであろうか。実習前から日誌を書くことへの不安感・負担感を口にする学生の中には、帰宅しても日誌の記入があるので時間外労働だと不満をもらす者もいる。しかし実習も履修教科目の一つであり、講義・演習・実験実習授業は事前・事後学習の授業外学修時間も含めた授業計画で学修する。このことは、文部科学省の中央教育審議会資料 (2018) の学修時間の確保と把握に関する平成 24 年答申で次のように記載されている。

「5. 学士課程教育の現状と学修時間 (学修時間に着目する理由) —(略)— 学生が、予測困難な時代にあって生涯学び続け、主体的に考える力を修得するには、事前の準備、授業の受講、事後の展開といった能動的な学修過程に要する十分な学修時間が不可欠である。学修時間が短いという現状に加えて、学生の学修時間に着目して学士課程教育の改善を図る理由は以下のとおりである。第一に、教育課程の基準が法令で定められ、授業時数を中心に教育課程が編成されている初等中等教育とは異なり、学生が主体的に事前の準備、授業の受講、事後の展開という学修の過程に一定時間をかけて取り組むことをもって単位を授与し、また、このような学修経験を組織的、体系的に深めることをもって学位を授与するというのが大学制度である。学修の量と質の両立のためには、質を伴った学修時間であることが必要である。したがって、各大学の学士課

程教育の基本的な目標の達成状況は、学修時間について、①学士課程教育に求められる学修の質が伴うように確保されているか、②その大学が重視する教育に関する営為と活動に照らして適切な設定となっているか、③大学や教員の組織的な責任体制がその確保に対応しているか、といった点によって示されるものと言えよう。(以下、略)」

と述べている。このことは、学修時間の確保が学士課程教育の質の保証と国際的信頼に示唆するとし、学生の学修時間の増加と確保という視点に立って学生の主体的学びを大学全体で取り組むべきと言い換えることができるであろう。

1日8時間の実習という授業を終え、事後学習によってその日の学びを記録し言語化することは、帰宅後に事後学習を行い、評価反省から翌日の目標を設定し目標達成のための事前学習を行うという学修の一環なのである。

2020年度、新学習指導要領が小学校から中学校・高校へと順次全面実施される。幼稚園・保育所・認定こども園も関係3法令が平成29年告示で同時改定され、幼児教育において育みたい資質・能力の3つの柱が示された。その一つに、思考力・判断力・表現力等の基礎を培う時期と定義づけられ、就学前、小学校、中学校、高等学校教育を通して伸ばしていくことが明確に取り上げられた。昨今、学生の文章表現力や国語力の低下が問題視されているが、見たり聞いたり書いたりすることのバランスが良くないと国語力は育たない。そのきっかけが就学前児童では絵本や図鑑であり、小学校から学年を追うごとに読書へとつながっていく。全日本学校図書館協議会の第65回学校読書調査(2019)によると、小学生の1か月平均読書冊数は1988年に6.3冊であったのに対し、2019年は11.3冊という結果が出ており、小学校時代の読書が盛んであることがわかる。一方で文化庁が実施している国語に関する世論調査(2019)は、16歳以上を対象に1,960人(有効回答数54.6%)の結果をまとめている。それによると約半数近くが1か月に1冊も本を読んでいない実態が浮かび上がる(図1.)。電子書籍に関する質問項目もあるが、活用している割合は8%程度で

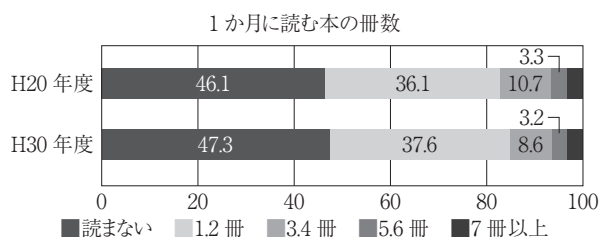


図1. 2018年度 国語に関する世論調査(抜粋)  
資料:文化庁(2019年2~3月調査)

あった。

読む・書く・聞く・話すことを経験して読解力が身につく、相手の思いや意図を読み取る力がつくとすれば、中学校、高等学校でほとんど読書の習慣がなくなり大学に入学してくる学生の記録指導が困難になることは容易に想像できる。本学の学生においても保育実習Ⅰを終えた学生10人に読書の習慣があるか質問したところ、7人が「ほとんど読まない」、3人が「3か月に1冊程度」との返答が返ってきており、文章に目を通す機会が少ないことがわかる。現状として誤字・脱字以外にも散見する事例を取り上げたがこのような課題への対応について考察する。

### ①学生の実態把握

現行、筆者が担当する1年次開講科目において漢字テストを実施したりテキストの音読により、読み飛ばしや読めない漢字の実態把握を行っているところであるが、「読む」「書く」ことができる漢字とできない漢字は義務教育のどの段階かを把握し、キャリア支援教育、図書情報館担当等の情報共有を強化する。これにより、漢字検定や図書要約プレゼン(仮称)等、学生が「参加しやすく役に立ち身につく」補習教育を行う。

### ②授業改善の取り組み

学生の学習効果を高めるためにフィールドワークやディベートを積極的に活用する。

本学では地域連携事業による保育交流体験を実施しているが、フィールドワークとして学生の研究論文に発展するよう改善したい。また、ディベートは、「聞く」「話す」体験を多く含むことから、宮崎(2015)は「体験を積むことで、論理的な思考力を育むことができ、文章を書く力にも繋がっていく。」と述べている。

### ③オフィス・アワーの積極的活用

授業を受ける学生に対して教員が相談に応ずる専用の時間帯(オフィス・アワー)の活用である。中央教育審議会では個別の学習指導や少人数教育の実践とともにオフィス・アワーの必要性を述べている。本学では課程専攻外の学生であっても履修アドバイスやオフィス・アワーで相談体制を整えているが、敢えて保育士課程を履修する学生を対象に専門領域の相談に応じる時間を確保する。

以上のような取り組み実現に向け、学生・指導教員との意思統一、さらに実習担当の理解を得るための説明責任を担うことが、学生の不安を最小限にして実習に臨み、その学びを記録化することが必要と考える。すべての学生が終始記録への不安を口にするわけではない。中には、「最初は大変だったが子どもの姿を観察することに

慣れてくると書きやすくなる。」という意見や、「保育士に付箋を貼られて嫌だったが、ある1日だけ誤字・脱字も指摘の付箋もなく嬉しかった。」という反省会の発言もあった。認められる体験が本人の成長を促すことは言うまでもない。どの学生にもそのような自己肯定感をもって成長してほしいとの願いと期待を込めて実践したい。

以上、本稿では、保育実習指導における記録指導の課題と対応について考察した。記録の必要性と重要性及び記録のための概略的取り組みを模索したところである。

今後の課題として、学生が実習において子どもの理解を深めるためにも、記録に必要な「子どもの姿」を捉える指導法の確立と実践について検討する必要がある。

### 〈引用・参考文献〉

- 石橋裕子・林幸範編著(2015). 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド. 同文書院.
- 公益社団法人全日本学校図書館協議会(2019). 学校図書館11月号.
- 厚生労働省編(2018). 保育所保育指針解説. フレーベル館. pp 52-53.
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長(2015). 指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について.
- 佐藤達全(2019). 保育科学生の文章に見られる問題点とその対応—保育者に必要な注意力と想像力の低下を中心に—. 日本保育者養成教育学会第3回研究大会資料 p 55.
- 全国保育士養成協議会編(2007). 保育実習指導のミニマムスタンダード—現場と養成校が協働して保育士を育てる—. ㈱北大路書房.
- 全国保育士養成協議会編(2018). 保育実習指導のミニマムスタンダード—「協働」する保育士養成—. 中央法規出版.
- 全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会(2018). 保育実習指導ガイドライン. 北海道ブロック編集委員会.
- 中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会(第1回)資料(2018). 高等教育に関する主な中央教育審議会答申の抜粋表 p 11.
- 文化庁(2019). 平成30年度「国語に関する世論調査」の結果概要. 一般社団法人中央調査社.
- 保育士養成課程等検討会(2010). 保育士養成課程等の改正について(中間まとめ).
- 宮崎加代子(2015). 文章を書く力をめぐる課題と指導—大学一回生の作文分析から—. 大阪総合保育大学紀要9号. pp 24-92.

## A Consideration about how to write childcare training diary

YOSHIE Sachiko

### Abstract

One of the difficulties students face during childcare training is writing a training diary. Writing requires observation and expressiveness. However, it is difficult to write while remembering the child's appearance because he plays with the child during the day. If you are not good at writing, childcare training itself is not good. Therefore, I researched how to write a practice diary and how to deal with it. As a result, I think three things are important: (1) deliberately set the experience of "reading" and "writing", (2) create time for fieldwork and debate, and (3) communicate with students in addition to class time.